

第3回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN)

All Japan Educational Model United Nations

大会報告書



高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会

主催：全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

共催：コトバンク株式会社

開催日時：2019年8月7日・8日

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター



第 3 回大会概要

開催日時：2019 年 8 月 7 日（水）・8 日（木）

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

主催：全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

共催：コトバンク株式会社

大会規模：649 名

会議方式：全日本高校模擬国連大会と同じ方式（ハーバード方式）

使用言語：日本語（一部定型句等は英語）

参加費：3,000 円/1 名

議題： 国際移住と開発

表彰：各議場に以下の賞を設定する。

- ・最優秀賞（1 カ国）・優秀賞（3 カ国）・実行委員特別賞（1 カ国）



会議の特徴

「全国に向けた模擬国連大会」として開催された本大会は、他の大会とは異なる特徴を持っている。以下の文では、本大会における特徴を3点に分けて述べていく。

まず1点目は、会議中における使用言語である。模擬国連大会は通常、英語を使用して会議が進行していくが、本大会の目標である「全国の高校生に模擬国連の存在を知ってもらう」ということを達成するために、高校生が簡単に話すことのできる日本語のみを使用している。本来、国連の場においては各国が平和に向けた議論を、英語を使用して交わすものであり、模擬国連はその模擬を行うものである。しかしながら、全国の高校生がだれでも英語を使用したディスカッションなどに触れているわけではない。そのため、経験者でも日本語による高度な議論が交わせるよう、また模擬国連に初めて参加する高校生には、英語の壁を感じないように、親しみやすく、会議進行がスムーズに行える使用言語の設定とその配慮を行った。

次に2点目として、議場設定である。本大会において上記に示した通り、模擬国連に初めて参加する高校生も多いため初級者議場を加えた議場設定とした。A 議場・B 議場・C 議場は一般議場、すなわち模擬国連経験者用の議場とし、D 議場・E 議場は初級者議場とした。本大会ならではの特徴であり、特に D 議場と E 議場においては、会議の流れを丁寧な説明を加えながらの進行を行った。模擬国連初心者が実際に大使としての役割を果たすことで、会議を最後まで通して、この活動の理解をより深めてもらいたいという願いがあったからである。参加をしなければ体感することのできない模擬国連における「学び」の数々を、初級者議場を設けることで確立できたのである。

最後に3点目として、本大会の醍醐味である「高校生による高校生の」大会運営である。本大会では全国から集まった大会実行委員 35 人が大会開催までの約半年間をかけ、3つのセクション、すなわち総務広報セクション、運営受付セクション、フロントセクションに分かれた後、準備を行った。主に総務広報セクションでは、ホームページ更新やチラシ作成、Facebook の更新といった今大会に向けた宣伝などの広報としての役割を担った。運営受付セクションでは、大会参加者の国割りや議場の準備等を行い、フロントセクションは、大会進行に向けた準備と本大会の議題設定、及び議題概説書や PPP フォーマットなどの作成、そして実際の会議の進行を行った。こうしてそれぞれ異なる3つのセクションが一丸となり、実行委員の皆が同じ目標を持つことで、「高校生による大会運営」が実現した。

結果として、全国から 600 名を超える大会参加者が集まり、2 日間に渡る白熱した議論が交わされ、初心者、経験者ともに参加者の皆が刺激的かつ有意義な活動を行えた。その理由として、本大会ならではの使用言語の工夫や、新たな議場を設定するという試み、また、「高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会」の開催だったからである。何より「全国に向けた模擬国連大会」は、全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)ではないと実現することのできないものであった。

以上が本大会における特徴を示したものである。

第3回スケジュール

第1日目 8月7日（水）

9:15	受付開始
10:00	開会式
10:45	会議開始
15:00	WP 提出
16:30	会議終了
～17:30	交流会（参加任意）
17:30	参加者完全解散

第2日目 8月8日（木）

9:30	開場
9:45	会議開始
13:20	DR 提出
14:40	投票
15:10	会議終了
15:30～	閉会式
16:30	参加者完全解散



実行委員長挨拶

大会実行委員長
海陽中等教育学校 3 年 安藤憲佑

第 3 回全国高校教育模擬国連大会を今年も無事に終えられたことをとてもうれしく思い、自分の高校生活における大きな成果を感じています。当報告書では自分の視点から見た大会全般についての感想を述べさせていただきます。

教育模擬国連大会は、自分を様々な角度から大きく成長させてくれた、格別に思い出が深い大会です。私が模擬国連の奥深い世界に足を踏み入れて、その道を進むようになったきっかけは当大会の第一回大会に高校一年生の時に先輩に誘われて参加したことでした。その後、模擬国連の面白さに魅せられた私は、一年後の第二回大会には実行委員として参加し、議長を務めました。このとき議長として議場をまとめた経験から学んだことは確実に私のその後の大使としての成長を促進しました。同時に、この時に一生大切にしたいような友人とも出会うことができました。

今大会で達成できたことのうち一つ言えるのは、参加者の数が大幅に増えたことです。これは必ずしも実行委員の仕事を楽しみはしませんでした、より多くの人に模擬国連を体験してほしいという願いを広く届けられたことは嬉しく思います。

この大会の魅力を申し上げますと、大使として参加すれば模擬国連の楽しさを知るきっかけづくりになります。今回の大会でも、私が初めて参加した時と同じように、模擬国連活動には学びの世界が広がっていることを知ることができた人は多いと思います。その学びは、本で読めば知ることのできるようなもののみではありません。人とのコミュニケーションや交渉の仕方などを含めた、総合的な学びを、模擬国連は提供してくれます。

また、実行委員であっても、大使とは逆の視点に立つことにより、別の学びを模索することができます。フロント側から鳥瞰的に議場を見てこそ学ぶことができることは多く、とても貴重な経験です。他にも、会議の裏側を知ることにより、大会を組織として運営することの大変さを、身をもって体感することができます。これらの経験は、普段の学校生活ではほとんど機会がなく、よって非常に価値があると思います。

その他にも、この大会では全国から集まる同年代の仲間と出会うような機会があります。参加者は校風や仲間内で固まりやすい価値観を壊し合い、お互いに成長できます。

学生が、強い向上心をもって新たな学びを探ることができる、教育模擬国連大会が、これからも振興されていくことを願うばかりです。



総務広報セクションリーダー挨拶

総務広報セクションリーダー
浅野高等学校 2 年 三浦慶

皆さんこんにちは。この度、総務広報セクションリーダーを務めさせていただきました浅野高等学校 2 年の三浦です。今は、第 3 回全国高校教育模擬国連 (AJEMUN) が無事に終わり安心し、自分の家でほっと一息ついているところです。

まず初めに、本大会に参加してくださった高校生並びに各校顧問の方々、後援・協賛・協力企業の方々、役員の先生方、そして大会に関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

自分のセクションの話をさせていただくと、この総務広報セクションは、人数が 5 人と少ないながら、ポスター作製・Facebook 管理・HP 管理・大会プログラム作成・当日の写真と動画の撮影・閉会式の映像の作成など言い出したらきりがなくいろいろな仕事があり、セクションのメンバーには多く活動してもらいました。自分の能力不足で、話し合いがうまくいかなかったり、思ったように上手く作業が進まなかったり、文字上での意思疎通がうまくいかなかったりと他のメンバーに迷惑をかけてばかりいましたが、総務広報セクションのメンバーや、他のセクションのメンバー、実行委員長、大学生スタッフのお二人そして総務広報セクション担当の宮坂先生を筆頭に役員の先生方にサポートしていただきながら何とか最後までやり遂げることができました。本当に皆さんには感謝してもきれません。ありがとうございました。

また、この AJEMUN には自分は 3 回とも関わらせていただきました。第 1 回・第 2 回大会は大使として参加させていただき、第 3 回大会は実行委員として参加させていただきました。いずれの大会でも、様々な全国の高校生から大きな刺激を得ることができ、また人脈も広がりました。このような、全国の高校生が集まる大きな素晴らしい大会に、実行委員として、しかもセクションリーダーとして関わることができたことは、僕自身にとっても大きな経験となりました。この経験を今後の人生で生かしていければなと思っています。

最後になりますが、自分に多くの刺激を与えてくれた AJEMUN が今後より良い大会になっていくことを切に願っています。



(前日準備の様子)



(当日の総務広報セクション)

運営受付セクションリーダー挨拶

運営受付セクションリーダー
大妻高等学校 2 年 西部陽菜

まず初めに、本大会にご後援ご協賛ご協力していただいた皆様及び参加していただいた大使の皆様、そして引率いただいた各校顧問の先生方、大会に関わって下さったすべての皆様に深く御礼申し上げます。

私は今、この第三回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）を無事成功に終わらせることができたことをとても嬉しく思っています。私自身、私の学校自体が、昨年の第二回 AJEMUN から模擬国連に参加しはじめて、それから模擬国連というものの魅力に惹かれ続け、今大会が模擬国連をはじめて一年という節目でした。そんな今大会に運営受付セクションとして、セクションリーダーとして運営の中枢に携われたことをとても光栄に思います。

セクションリーダーとして、半年間で私はたくさんのことを学ばせていただきました。その中でも最も強く感じたことは、仕事の分担の難しさです。実行委員は大会前日まで顔を合わせることがありませんし、顔見知りもほとんどいません。そんな中で、誰にどの仕事をどれだけ回せば良いのか、オンライン上だけでのやり取りで果たして仕事内容は伝わるだろうかと不安になりました。オンライン上だけでのやり取りは今まで経験がありませんでしたし、いかに自分が普段相手の顔色を窺って行動しているのかを思い知りました。顔色を窺うことは悪いことではないと思いますが、こればかりを気にしていたら自分の言いたいことは伝えられません。これは模擬国連にもつながると思います。他の大使に自国の政策を伝えることができなければ、せっかく自分なりに政策を考えても元も子もなくなってしまいます。あと少しの勇気をもって話しかければ、あと少しの勇気をもって頼みごとをすればことはうまくいくのに。これからはこんな思いを持たないように AJEMUN での経験を今後に生かしていきたいです。

また、今大会でも前回大会に続き私に沢山の出会いをくれました。皆さんも交流会で同じグループだったメンバーや議場で AJEMUN に参加しなければ出会えなかったであろう全国から来た沢山の高校生に出会えたのではないのでしょうか？もし、参加者の皆さんが少しでも AJEMUN に参加して良かったと思っていただけたのなら幸いです。今大会の実行委員は模擬国連に対して熱い思いを持っている人が多く、大使として参加する時とは異なる刺激を沢山受け、私は今大会を通してさらに模擬国連が好きになりました。そして片付け作業の時には本当に出会って三日目の人たちかと思うほど仲良くなれて、本当に別れるが寂しかったです。そんな、沢山の出会いを私にくれた AJEMUN がこれからもより良くなって末永く続いていくことを願っています。

フロントセクションリーダー挨拶

フロントセクションリーダー
頌栄学院高等学校2年 山本杏奈

第3回全国高校教育模擬国連大会のフロントセクションリーダーを務めました、頌栄女子学院高等学校2年の山本杏奈と申します。この大会に向けて3月中旬から準備してまいりました。フロントセクションはBG補足、プロシージャ、会議細則など大会公式ホームページに公開された資料の多くを作成し、PPP・NPの確認などを行い、当日は会議の進行を担当しました。大会の目標・意義などについて話し合い、それをふまえて当日どのような会議運営を目指すかを議論した上で決定しました。フロントセクションは18人と人数が多く、模擬国連について情熱的で強い思いを持っている方も多く、意見が対立することもありましたが、よりよい大会となるよう努力しました。事前準備をするにあたっては、計画的に進めることの大切さを実感しました。特に他セクションや先生方と連動して作業をする場合、完成形やスケジュールを共有するなど計画性が必要不可欠です。会議当日は時間管理をしっかりと行いながら、この大会が学びの多いものとなるよう、全力で各議場のフロントメンバーが会議の進行を行いました。特に初級者議場と一般議場とでは会議運営の際に必要な配慮が異なるので、進行方法もそれに応じて調節しました。

私が担当したD議場は、大使全員が模擬国連会議に参加するのが初めてか2回目という議場でした。会議1日目は、大使から動議がなかなか上がらなかったり、調べてきたことを発表することにとどまって議論が深まらなかったりする様子も見られました。フロントとして、議論の内容を深めるように促そうと考え、2日目の会議冒頭で大使の方々が意見共有を自由にできるような場を設けるなどしました。大使の皆さんも会議に慣れてきて、公式討議中にも非公式討議中にもより積極的に自国の主張をするようになり、議論も活発になって内容も深まりました。

さらに、会議運営をしていて、いくつかの点に気づくことができました。まず、大使の方々と良好な関係を築くことの大切さです。お互いに敬意を示し、丁寧に全てに対応する大切さを感じました。また、コミュニケーションの重要さを改めて実感しました。特に初級者議場だったので、会議についての共通認識や理解がないまだできあがっていないことを忘れずに話すことが大切だと思いました。どのように質問するかによって得られる答えが異なってくるので、言葉の並べ方には常に注意し、相手がどのように受け取るかを想像しながら会話をする必要があると感じました。これらは模擬国連に限られることなく、他人と話すときは常に考えなければならないことだと思います。大使の方々の成長はもちろんのこと、運営した私たち実行委員の成長も感じられた2日間でした。AJEMUNは大使にとっても実行委員にとっても「教育」の場となっており、これからもより多くの高校生に広まってほしいと願っています。この素晴らしい大会の運営に参加することができ、光栄に思っています。実行委員としても大使としても、多くのものを得られる大会だと思うので、もし来年のAJEMUNへの参加を迷っている方がいらっしゃったら、ぜひ挑戦していただきたいです。今後もAJEMUNの振興に期待しています。

実行委員生徒一覧

【実行委員長】

安藤 憲佑（海陽中等教育学校）

【総務広報セクション】

三浦 慶（浅野高等学校） セクションリーダー

亀屋 明日香（新潟県立直江津中等教育学校）

重友 初音（山崎学園富士見高等学校）

鈴木 瑞朋（山崎学園富士見高等学校）

村田 ななつ（金沢大学附属高等学校）

【運営受付セクション】

西部 陽菜（大妻高等学校） セクションリーダー

今井 慧璘（ぐんま国際アカデミー高等部）

上野 紀美（青山学院横浜英和中学高等学校）

大原 由子（昭和女子大学附属昭和高等学校）

小見 希々佳（金沢大学附属高等学校）

佐川 七海（青山学院横浜英和中学高等学校）

為 陽香（豊島岡女子学園高等学校）

丹後 向日葵（大妻高等学校）

根本 千裕（浦和明の星女子高等学校）

服部 有紗（岐阜県立岐阜高等学校）

丸尾 倫菜子（金沢大学附属高等学校）

【フロントセクション】

山本 杏奈（頌栄女子学院高等学校） セクションリーダー

浅田 琴紀（金沢大学附属高等学校）

ヴェムリ ハルシュワルダン ヴィジェイ（玉川学園高等部）

勝田 真由（豊島岡女子学園高等学校）

木口 夢羽（江戸川学園取手高等学校）

小林 りこ（聖心女子学院高等科）

宿谷 綾音（江戸川学園取手高等学校）

関谷 呼鼓（頌栄女子学院高等学校）

常澤 孝（早稲田大学本庄高等学院）

頓所 凜花（渋谷教育学園幕張高等学校）

中山 大河（浅野高等学校）

成相 悠喬（浅野高等学校）

堀 翔貴（名古屋高等学校）

三上 舞夏（頌栄女子学院高等学校）

宮本 愛里（頌栄女子学院高等学校）

持松 進之介（浅野高等学校）

森 桃子（昭和女子大学附属昭和高等学校）

山内 梨々花（聖心女子学院高等科）





大会参加校一覧

浅野高等学校	佼成学園女子高等学校
郁文館グローバル高等学校	神戸女学院高等学部
茨城県立竹園高等学校	小林聖心女子学院高等学校
宇都宮短期大学附属高等学校	駒場東邦高等学校
浦和実業学園中学・高等学校	金光学園高等学校
江戸川学園取手高等学校	済美高等学校
鷗友学園女子高等学校	栄東高等学校
大阪信愛学院高等学校	学校法人天真林昌学園 酒田南高等学校
大谷高等学校	実践女子学園中学校高等学校
大妻高等学校	渋谷教育学園渋谷高等学校
大妻中野高等学校	渋谷教育学園幕張高等学校
お茶の水女子大学附属高等学校	十文字高等学校
海城中学高等学校	頌栄女子学院高等学校
開成高等学校	淑徳高校
開智中学高等学校	昭和女子大学附属昭和高等学校
開智未来高等学校	水城高等学校
海陽中等教育学校	逗子開成中学校・高等学校
学習院女子高等科	成蹊高等学校
鹿児島情報高等学校	聖心女子学院高等学校
春日部共栄中学高等学校	専修大学松戸高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校	高田高等学校
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	玉川学園高等部
神田女学園	千葉県立千葉東高等学校
吉祥女子高等学校	中央大学杉並高等学校
岐阜県立岐阜高等学校	中央大学附属高等学校
岐阜県立関高等学校	田園調布学園高等部
公文国際学園高等部	桐蔭学園高等学校
クラーク記念国際高等学校 柏キャンパス	東京学芸大学附属国際中等教育学校
クラーク記念国際高等学校 所沢キャンパス	東京女学館高等学校
クラーク記念国際高等学校 横浜キャンパス	東京都市大学等々力高等学校
群馬県立中央中等教育学校	東京都立国際高等学校
ぐんま国際アカデミー中高等部	東京都立白鷗高等学校
晃華学園高等学校	徳島県立城東高等学校
工学院大学付属高等学校	豊島岡女子学園高等学校
佼成学園高等学校	栃木県立石橋高等学校

鳥取県立米子東高等学校
都立小石川中等教育学校
都立日野台高校
直江津中等教育学校
名古屋高等学校
名古屋市立名東高等学校
灘高等学校
南山高等学校男子部
西大和学園高等学校
日本女子大学附属高等学校
浜松学芸高等学校
福山市立福山高等学校
富士見丘高等学校
富士見高等学校
法政大学国際高等学校
松商学園高等学校
松本秀峰中等教育学校
三田国際学園中学高校
武庫川女子大学附属高等学校
茗溪学園高等学校
山形県立山形東高等学校
山脇学園高等学校
横浜翠陵高等学校
横浜雙葉高等学校
洛南高等学校
ラ・サール高等学校
立教女学院高等学校
立命館高等学校
立命館守山高等学校
AICJ 高等学校



合計 参加 100 校

各議場の講評・受賞校一覧・最優秀大使からのコメント

A 議場

【講評】会議監督：名古屋高等学校 2 年 堀翔貴

今会議は「中東、北アフリカ」「アジア太平洋」「EU はじめ先進国」の 3 つのグループに分かれて話が進みました。そのグループ毎で 3 つの WP が提出された後、「中東、北アフリカ」と「アジア太平洋」がコンバインし、最終的に「EU はじめ先進国」と「中東、北アフリカ、アジア太平洋」2 つのグループが DR を提出し、投票の結果 2 つ共採択される形となりました。

今会議で一番印象に残ったのは「役割分担のうまさ」でした。論点毎、或いは地域毎にそのグループ内でも分かれて議論して文章をつくり、後でくっつけて 1 つの WP を作成するという方法をとる所もありました。

全体的にペア間での内政と外交の分担が上手な大使が多く、2 人乃至は 3 人各々の役割をしかと果せていたなと感じました。WP、DR の文章作成の時にも、「文章をつくる人」と「内容を固める人」でグループ内で分かれて効率的に動いていたなと感じられました。

しかし最初から分かれた為に同じ WP グループ内で情報共有がうまくできなかったり、分けていたのをくっつける時に「こんな話聞いていない」と揉めたりする事も見られました。集団を纏める際に、「役割分担」と「全体の統率」の両立をいかにこなしていくかという事が次に向け考えられるべきマターであると感じました。

結びとして今大会の場を設けて下さった先生方、共に協力し働いた実行委員の皆様、大使として参加して下さい皆様、に厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Egypt	海城中学高等学校
優秀賞	Greece	灘高等学校
優秀賞	Indonesia	渋谷養育学園幕張高等学校
優秀賞	Iraq	駒場東邦高等学校
実行委員特別賞	Mexico	郁文館グローバル高等学校
	South Africa	西大和学園高等学校

【最優秀賞】

Egypt 海城中学高等学校 2 年 岡本大輝

今回、A 議場でエジプト大使として参加した海城高校 2 年の岡本大輝と申します。

模擬国連という活動には数年前から取り組んでおり、練習会、大会への参加経験もありましたが、教育模擬国連大会への参加はこれが初めてとなりました。それだけに、会場に行き、参加者の多さに

驚きました。初日は、その参加者の数に圧倒され、緊張が増したのを覚えています。

会議を振り返ってみると、「盛りだくさんの会議」、その一言に尽きると思います。2日間という短い時間の中、本当に多くのことが話され、行われました。そんな中、多くの人は、僕も含めて、ハイスピードな議論についていくのが難しかったと思います。

模擬国連においては、各ペアが一国の大使として行動します。一国の代表、ということには相当の責任が付きものだと思います。本来ならば、自分の一挙手一投足が自国民、さらには世界に影響を及ぼすからです。そのため、大使は、常に自国の利益と国際益とのバランスを考えて行動する必要があるわけですが、そのためにはやはり自国の考えてきた政策をどういう形であれ議場に示す必要があると思います。それは、スピーチを通してかもしれないですし、モデ・アンモデ中の発言、さらにはNPなどの配布資料を通してかもしれません。そういう意味で、今回の会議で、グループの運営を助ける一員として、各国の意見を引き出したり、十分に各国の意見をDRに組み込んだりできなかったのは心残りです。様々な会議への参加を通し、すべての国が議論に参加することの大切さを意識してきた身としてはこの点が残念に思われてなりません。

閉会式で今大会への参加者の多さ、またその多様さについてのお話がありました。近年、模擬国連がますます多くの学校、地域に普及していると思います。そのように模擬国連が大規模化する中で、前述の、全大使の議論への参加、ということは絶対に忘れてはいけないと思います。また、参加者全員が話しやすい環境を、全員で作りに上げていかなければ、模擬国連経験があまりない人が模擬国連を楽しむことはできないし、模擬国連の更なる普及も望めないと思います。

ここまで、偉そうに模擬国連を語っていますが、僕もまだまだ模擬国連を理解しきれていないわけではなく、会議において実際に前述のことを達成できているわけでは決してありません。このことは模擬国連に参加する以上、賞の獲得という目に見えた成果云々の前に、常に考え続ける必要があります。長くなってしまいましたが、今回の教育模擬国連会議では普段の練習会だけでは経験しえないことをたくさん経験できました。これからも模擬国連という活動には何かしらの形で関与していきたいと思っています。その際はよろしくお願いします。

最後に、今大会の運営委員、アドミニの方々、大会の開催及び引率などに協力してくださった先生方、大使の方々に厚く感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

Egypt 海城中学高等学校 2年 小林恒司

「誰一人取り残さない」という聞こえのいい言葉は実現が難しいものです。2015年に世界が合意した開発目標（SDGs）の理念といわれるもので、模擬国連の議場でも多くの大使が呼びかけます。多くの大使は誰一人取り残さないための政策を盛り込みます。絶対に満たすべきその取り残さないという目標を達成するために多くの大使が自分の政策にこだわりと自信をもって主張を続けます。

しかしその主張するまさにその瞬間。誰か一ほかの大使たちを取り残されることがあるでしょう。半年経験を積み模擬国連に慣れつつある中で私は自戒も深く込めたうえで、模擬国連に取り組む大使全員が、大使たちも、大使が背負う国民も、世界に住む人たちも取り残さないという、より具体的な目標を新たに明確に掲げる必要あると感じるようになりました。言っていることが同じではないかと思う人もいるでしょう。しかし、「世界中の問題を解決する」、という1文とあのSDGsの17の目標と169のターゲットたちは同じ扱いを受けません。なぜならそれが具体的で、明確だからです。SDGs

を見習うならばもっと具体的にする必要がありますでしょうが私はいまだ未熟で決めることができる状況にありません。そして、ひとまず「大使たちも、大使が背負う国民も、世界に住む人たちも取り残さない」という、より具体的な目標を掲げ行動することは決して無意味ではないでしょう。その後より具体的にしていく過程で役に立つと推測できるので、まずは1段階明確になったこの目標で動いていこうと思いつつ、AJEMUNに挑みました。

残念なことに私は狭い視野と先を見通すところが特に未熟で、まったくといっていいほど目標には届きませんでした。その結果に本当に悔しく感じます。残された会議出場のチャンスは少ないですがAJEMUNのレビューを必ず次につなげます。それから、模擬国連熟練者ではありませんのでこれといって技術や知識は持ち合わせていませんが、特に後輩に還元することも意識したいと思います。今回の会議でも同校の中学生がアドミニとしてメモを回す姿などが目に入りました。ありがとうございました。次はこちらがお返しをする番なのかもしれません。

最後になりますが、賞は1種の結果として大変うれしく思っています。このような貴重な機会を得ることができたのはチームの2人や先生方をはじめ、大会運営事務局や同校生徒以外のアドミニやスタッフ、親を含めたすべての人の理解と協力のおかげであり、金銭面でのハードルが高い模擬国連に参加できたこと自体のありがたさを認識するうえで、この場を借りて改めて深い感謝申し上げます。

Egypt 海城中学高等学校2年 双川凜生

私にとって全国規模の模擬国連大会はおろか、公式の会議も初めての参加でした。

模擬国連経験があまりない為、今まで参加したことのある練習会議と比べ大規模なAJEMUNの大会のことを考えると、会議が近づくにつれ心配になる一方でした。

今回担当したエジプトは、今まで参加した練習会議でも複数回担当して、良い印象があることから、僕にとってとても愛着のある国です。エジプトを担当するにおいて、準備の段階で地理的な側面から政策や会議行動を考えました。エジプトは中東、アフリカ、そしてヨーロッパを繋ぐ地政学的な要衝に位置する大国であります。様々な国をつなぐ架け橋となれるような可能性があることから、大きな軸となるエジプトとしてのスタンスを決め、各国の政策を柔軟に盛り込むことを心がけようと考えました。

本会議の議題であった「国際移住と開発」において、非正規移民が問題となっている地中海に面しているなど、当事国であるような側面もありながら、同時に自国では移民の受入数・送出数がともに少なく、移民問題にあまり関わりがないなど様々な側面を持つことから政策立案に難儀しました。その中で会議に向けて、エジプト大使として会議にエジプトの意見、政策を反映すること、そして、国際移住と開発に関連する問題の包括的な解決に向けて今会議を有意義なものにすることを意識して、さらなるリサーチやPPやNPなどの事前資料の作成をしました。

当日はいつもの練習会議をはるかに上回る人の多さに緊張し、議場が作り出す独特な雰囲気吞まれてしまいました。会議の冒頭、議場としてある程度議論のルールが敷かれていると感じた中で、効果的な外交を行うことが難しく感じました。全国レベルの議論を目の当たりにして、グループ内の議論の終着点を見つけることがとても難しく感じ、場慣れをしてきたと思っていた自分の手法の狭さを思い知らされました。二日間における議論の結果、提出された決議案が各国の意見を十分に反映し切れなかったことがとても悔しく、提出後、遣る瀬無い気持ちになりました。会議に参加した全ての国

が十分議論に参加するという形の模擬国連が達成されなかったことは残念でなりません。

自国益を最優先で考え、実現可能な政策を提案する必要がある議論とは違い、高校生が行う模擬国連はユニークで興味深い政策が多々見られました。高校生が真剣に国際的な社会問題に多角的な視点から議論し、より良い社会を目指すために解決策を模索するという模擬国連、特に全国規模の本大会は、高校生の我々にとって貴重な体験だと思いました。

最後になりますが、今大会の実行委員、アドミニの方々、スポンサーの方々、先生方、そして二日間熱い議論をしてくださった大使の方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



B 議場

【講評】 会議監督：浅野高等学校 2 年 持松進之介 議長：聖心女子学院高等学校 2 年 小林りこ

会議 1 日目は会議目標が明確な大使が多く、積極的にグループ形成が行えていた。一方でグループ内の議論の様子は改善の余地があると思う。ある大使の発言への反応が薄かったり、あるいは中心で 1 カ国のみが発言し続けたりしている様子が見受けられた。グループとは 1 カ国ではなく多くの国数で意見を発信する事で、よりその意見が国際社会に伝わりやすくなるため形成するものである。根本的な目的意識を忘れず、より建設的で質の高い議論をするため、全大使に振り返ってみてほしい。また政策の実効性を追求する議論が少なかったと思う。国連総会を模倣している点を忘れず、適切でより具体的な政策を事前準備から意識すると良いのではないかと考える。

会議後半の交渉では、全体を見据えた目的意識が薄れ、文言を作成するためだけの交渉が多かったと感じる。グループの方向性や、会議を通じて達成したい事を明確にしてから文書に向けた交渉を行う事で、スムーズに議論が行えると思う。自分の果たすべき役割や、先を見通した行動計画を常に考え、充実した会議を創り上げていってほしい。またコンバインの際に議場が混乱していたが、モデを有効に活用し、反省を活かした会議行動で改善しようとする姿勢に大使の方々の熱意が感じられた。

模擬国連では国家間の利害関係に関わる問題について交渉し、合意文書を作成する。高度な内容や合意形成、大使との協力は簡単ではないが、今回の会議が素晴らしい経験となり、今後活かされていくものであることを願う。さらに今後も様々な会議に挑戦していくことで、自分らしく模擬国連の奥深さを追求していただければ嬉しく思う。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Bahamas	浅野高等学校
優秀賞	Malaysia	駒場東邦高等学校
優秀賞	Afghanistan	群馬県立中央中等教育学校
優秀賞	Greece	海城中学高等学校
優秀賞	Brazil	渋谷教育学園幕張高等学校
実行委員特別賞	France	渋谷教育学園幕張高等学校

【最優秀賞】

Bahamas 浅野高等学校 2 年 柳澤岳・安武優斗

今回このような記事を書く機会を頂けてとても幸運に感じております。今大会に参加するまでの経緯、当日の振り返り、最後に皆さんに伝えたいことを述べたいと思います。

実は、私はちょうど 1 年前に模擬国連を引退していました。初めは良かったのですが 3 回目以降は苦悩の日々で、思うように行かないまま賞はおろかりーダー国になることすらできませんでした。自分に足りていないことはわかっているのに、どうすればできるようになるのか分からず、そんな自分を責めたりして深く落ち込むことも多々ありました。だから、第 2 回 AJEMUN を最後にやめて、ディベートに転向することに決意したのです。

リサーチを進めるうちに、今会議は特にコンセンサスが必要であると気がつきました。近年世界中で移民に対する嫌悪や排斥が広まっているからこそ、求められていたのは今後世界が足並みをそろえて移民問題に取り組んでいくための足がかりとなるコンセンサスでした。しかしこのような難しい議題で1つの決議を可決するのは困難です。そこで僕たちは「提出される全てのDRに共通の文言を加え、それらを採択することで、世界全体で一致した認識を形にすること」という目標を立てました。

そしてこの経験を通して皆さんに伝えたいことは「模擬国連に本質はあるが正しいやり方はない」ということです。国益を守りながらコンセンサスを目指すこと、そのためには“リーダー国”だけでなく全大使が議論することが必要であること。この本質はどんなやり方でも共通して言えます。ですがそれを目指す「方法」は一つではありません。僕は「賞」や「リーダー」という“重荷”を下ろしたことで自由になり、たくさん的大使と笑顔で楽しく議論をし、何よりも初めて模擬国連を楽しむことができました。あなたに合ったやり方、楽しみ方が必ずあります。自分がそうであったからこそ、皆さんには周囲の“普通”に囚われず、自分なりの方法を選ぶことを怖がらないでほしいです。“もぎこく”を楽しんでください！

A large group of students in white uniforms are posing in a hall, holding up signs for various countries. The students are arranged in several rows, with some standing and some sitting in the front. The signs they are holding include: India, China, UK, Germany, Singapore, Portugal, Australia, Tajikistan, Romania, Pakistan, Philippines, Spain, Iran, Mexico, Zimbabwe, Italy, South Africa, Turkey, Iraq, Gambia, Thailand, Morocco, Sudan, France, Nepal, Haiti, Qatar, Nigeria, Algeria, Mexico, Georgia, Sweden, Myanmar, and Mozambique. The background is a large white screen.

C 議場

【講評】議長：頌栄女子学院高等学校 2 年 三上舞夏

C 議場は経験者が多く、初めのアンモデの際からグループ形成もスムーズになされ、コンバインの混乱はあったものの WP 提出まで滞りなく議論が進んでいたように思います。そして、大使それぞれがグループ内で話をよく聞き、理解しようと努めていました。しかし、グループ内で発言している大使は限られていたのではないのでしょうか。PPP を見ると、リサーチを重ねて政策を沢山練ってきていたように思われました。事前準備が活かさないのはとても勿体ないことなので、受け身にならずに積極的に議論に参加していただきたいです。また、無事に全 WP・DR とともに提出されましたが、具体性に欠けている点、内政不干渉の原則に抵触する内容が多々ありました。文章のディレクチェックを細かく行って直した点が各文章にあったと思うので、よりよい文章を作れるように今後の模擬国連に活かしていただけたら幸いです。2 日目の最初のアンモデの際に、ディレクチェックの内容確認があまりされず、すぐにコンバイン交渉に移ろうという行動も見受けられました。内政を固めてからでなくしてはコンバインする際に分裂しかねないということも念頭に置いて行動してほしいと思います。

本大会は全国規模で参加人数が極めて多い貴重な大会です。今回の会議でよかった点はさらに伸ばし、悪かった点は次回克服できるように反省点をしっかりと見極め今後につけていっていただきたいです。2 日間お疲れさまでした。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Haiti	山形県立山形東高等学校
優秀賞	China	小林聖心女子学院高等学校
優秀賞	Nigeria	渋谷教育学園渋谷高等学校
優秀賞	Australia	西大和学園高等学校
優秀賞	South Africa	大妻高等学校
優秀賞	UK	海城中学高等学校
実行委員特別賞	Mozambique	渋谷教育学園幕張高等学校

【最優秀賞】

Haiti 山形県立山形東高等学校 3 年 長澤パティ明寿

「Motion.」2 年前に開催された第 11 回全日本高校模擬国連大会。議場に響き渡る大使の声。私の体に衝撃が走った瞬間を今でも鮮明に覚えている。

私達が初めて模擬国連会議を経験したのがその大会だった。全くの初心者であり、ノウハウもプロシージャーや議題解説書を読んだ程度であった為、只々会場の雰囲気と全国の高いレベルの議論や会議行動に圧倒されるばかりであった。しかし、それと同時に模擬国連の魅力に取り付かれたのもあの場所であった。全国の舞台上、国益と国際益のバランスを考えながらリーダーシップを取れる大使になりたいと帰国する新幹線の中で決意してから 2 年。多くの経験を通してその目標に近づくことができたのではないかと感じている。

模擬国連の醍醐味。それは、現代社会に山積している国際問題の解決がなぜこれ程までに難しいのかを肌で感じながら、それに対してどのような解決策が見出せるのか、世界を俯瞰し当事者意識を持って深く核心に迫ることであろうと私は考える。

この度の大会、その醍醐味を満喫しながら全力で高校模擬国連の集大成を楽しむことができた。これまでの経験を活かして、できる限りのリサーチをし、戦略を立て、会議に臨んだ。しかし議場に入ると、夥しく飛び交うメモの量、最初のモーションが全て否決される、いきなり EU の大きなグループができるなど最初から全く予想だにしない状況の連続であった。そんな中、ペア間の連携や丁寧な議論、臨機応変な対応を意識し、積極的かつ全方位的な外交交渉を展開することで最終的には決議を採択することができた。これもひとえに C 議場のフロント、大使の皆さんのおかげであると思っている。フロントの皆さんの模擬国連・議題に対する深い理解と多角的な視点。それらを兼ね備えるからこそその円滑な議事進行には感銘を受けた。また、大使の皆さんの深いリサーチから生まれるユニークなアイデア、議場全体に目を配り、コンセンサスを目指した見通しのある会議行動には驚かされ、多くを学んだ。全国各地からの参加者とネットワークを構築できたことも個人的に大変意義深かった。

私はこの素晴らしい大会をもっともっと地元山形県・東北の高校生に体感して欲しいと強く願っている。今大会、東北地方からの参加校はたったの 2 校。これが東北における模擬国連の現段階での普及度である。私達はこれまで山形東高校の 1 年生への模擬国連体験、「CHALLENGE 模擬国連 in 山東 第 1 弾 ～山形編～」 「CHALLENGE 模擬国連 in 山東 第 2 弾～東北編～」を開催し、模擬国連活動の発信も意識をして行ってきた。今大会に沢山の後輩が参加したことは大きな収穫であったが、東北の学校数としての伸びが少なかったのは残念だ。しかし、それは大きな可能性を秘めているということの裏返しとも言えよう。幸いにして最優秀賞を頂けたことも、今後の発信に活かすことと確信している。まずは後輩に私達が創り上げたものを引き継いでいきたい。

結びに、このような貴重な機会を頂きました大会役員・協賛企業の皆様、大会を充実したものに創り上げて下さった実行委員会の皆さん、共に議論し合い、大きな刺激を与えて頂いた C 議場の大使の皆さん、そして何より共に模擬国連活動と一緒に取り組んでくれたペアの若林に深く感謝を申し上げます。Mèsi. (ハイチ語：有難うございました。)

Haiti 山形県立山形東高等学校 3 年 若林恭佑

地方公立高校の挑戦は簡単ではありませんでした。特に我々の住む東北は模擬国連そのものが無名で、全国規模の大会出場者はごく少数、経験者との練習試合を一度もしないままの今大会「第 3 回全国教育模擬国連大会」への出場となりました。

1・2 年生時、思うように模擬国連を体験できなかった私たちは、3 年生になってからもチャンスがもらえる今大会に救われました。

テーマは「国際移住と開発」。受験勉強の合間を縫って何とかリサーチを進め、世界の現状を把握しました。政策立案は実際に世界で行われている政策の応用を意識しました。それが最も現実的で、かつ効果があると思ったからです。

大会本番、不安は尽きることがありませんでした。最初のモーションが全て否決されたとき、「すごい議場へ来た」と思いました。続くアンモデでも、グループ形成で、自分たちの所へ誰も集まらず、どうしようかと、頭が真っ白になりました。幸い、その後集まってくれた数名の大使のおかげで何と

かグループ形成ができました。当初は実に不利に見えた少人数のグループでしたが、かえってその方が一人ひとりの話をよく聞いて、議論を深めることが出来ました。その後、その姿勢ないし決議文草案に賛成してくれた多くの大使の協力により、国益達成を目指した素晴らしい決議文をつくることが出来ました。移民促進派の理念はもちろん、各国大使の知恵を結集した具体的な政策を盛り込むことができたと思います。

一日目のコンバインに際して十分な話し合いのないまま進んでしまったことや最後コンセンサスに至れなかったことなど力の至らなかった点があり、申し訳なく思います。それでも最終的に議場の目指す方向そのものが食い違うことは無く、二つの文書を採択できたことは、ひとえに、綿密な他グループとの交渉、及び政策・条文の提言等をしてくださった議場の大使皆さんのおかげです。話し合っ物事を決めていくプロセスやコミュニケーションの取り方など、様々な学びがある良い会議が経験できました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、前例のないなかで模擬国連の参加を後押ししてくださった先生方、このような素晴らしい大会を開催してくださった実行委員・事務局、その他関わって下さった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。



D 議場

【講評】 会議監督：聖心女子学院高等科2年 山内梨々花

初心者議場だったD議場では、2日間を通して大使の成長を感じとることができました。

会議1日目は、模擬国連の会議進行が複雑であることや、3つの論点に及ぶ広範な議論を求められていること、そして参加国が70を超える大きな議場であることに戸惑っていたように見受けられました。大使全員が初心者である議場ならではの難しさを私たちフロントも改めて痛感しました。会議2日目は、会議に慣れてきたこともあり、1日目以上に活発で具体性に富んだ議論が繰り広げられていました。序盤で取られたモデでは全ての論点を網羅しつつ多くの大使が全体に意見を発信し、その後のアンモデでは実現可能性のある決議案を作成しようと各国がオリジナリティ溢れる政策を提言していました。また、フロントに積極的に質問を寄せる大使の姿もありました。真摯に会議に向き合おうとする大使の姿勢が表れており、嬉しく思いました。一方で、3つのグループが決議案作成に臨んでいながら期限に間に合わずDRが1本しか提出されなかったこと、そしてそのDRが否決されてしまったことは非常に残念でした。今後の会議では、時間管理の徹底と、コンセンサスを目指す姿勢の2つを大切にいただけたらと思います。

皆さんと創り上げた今大会が今後も模擬国連を続けるきっかけとなれば嬉しいです。参加していただき、ありがとうございました。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Thailand	都立日野台高等学校
優秀賞	Japan	武庫川女子大学附属高等学校
優秀賞	Argentina	郁文館グローバル高等学校
優秀賞	Singapore	金沢大学附属高等学校
実行委員特別賞	Morocco	三田国際学園高校
	Ukraine	クラーク記念国際高等学校横浜

【最優秀賞】

Thailand 都立日野台高校2年 上村千夏

まず、この大会を運営して下さった方々、大使の皆さん、指導して下さった先生、一緒に出てくれた中村さん、応援してくれたすべての人に感謝を伝えたいです。

今回、模擬国連への参加は二回目、今大会には初めての参加でした。学校としても初めての参加で、参加する生徒4人で練習内容、活動日、活動場所を決め生徒主体で参加した今大会で最優秀賞をいただき大変うれしく思っております。

今回参加した動機としては、この年の2月にジャポロメトロポリタン模擬国連に参加しました。当時は、参加経験のある先輩もおらず、情報の把握不足や自信のなさにより公式討議では文脈のない文で話してしまい、非公式討議では相手の話に飲み込まれてしまいました。人前で分かりやすく話す難しさや、人と意見をすり合わせる難しさなど多くのことを学びました。そこでリベンジをしたいと考

え参加しました。

一番大変だと感じている情報収集では、調べやすくするための PPP がありましたが正しい情報の判断や情報がうまく引っかからず予定よりも 1 週間長く PPP 作成にかかってしまいました。PPP に必要な情報がどうしても見つからなかったときに一緒に大会に出た仲間に何度もウェブページを教えてもらったり、言葉遣いを正してもらったりしました。PPP 作成できたのは仲間との助け合いが大きかったと思っています。また、前回自国の情報収集でいっぱいになり他国の情報収集ができず、開始してから動き方がわからず困惑した反省から、近い国など調べ、NP もしっかり目を通して交渉する国を大まかに決めて参加しました。

PPP 作成が終わった後の練習としては、実際に模擬国連をシュミレーションした練習を行いました。ですが、学校からの参加者が 4 人なので 2 カ国しかありません。流れなどの練習が多くなってしまい、一番すべきだと考えていた公式討議、非公式討議の考えのすり合わせなどはあまりできませんでした。前日、先生一人、JET の先生と合計 4 カ国での練習が最大でした。流れの確認も丁寧にみんなを確認しながらできたことはとても良かったです。

今回の議題は「国際移住と開発」で、担当国がタイということで出稼ぎに出る人も出稼ぎに来る人もいるという中立な立場で会議に挑みました。会議の内容としてははじめに日本大使の方とグループを作り、協賛してくださる国が集まってくれていましたが、WP を提出するスポンサー数が足りなかったのですが、日本大使の方がうまく違うグループの内容とまとめてくださりコンバインすることができました。日本大使をはじめたくさんの国の動き方から多くのことを学ばせていただきました。ですが、1 日目ではコンバインする国との折り合いと情報の共有がうまくいかず WP の作成が間に合わず、2 日目では制限時間ぎりぎりになり間違った DR を提出してしまい場を混乱させてしまったことを大変深く反省するとともに、タイムマネジメント力の大切さを改めて学ばせていただきました。改めて、大使の皆さんや大会運営していただいたすべての方に感謝申し上げます。

Thailand 都立日野台高校 2 年 中村百花

この度は、第 3 回全国高校教育模擬国連大会で最優秀大使賞を頂き、誠に嬉しく思っています。都立日野台高校は今回が AJEMUN 初参加で、私自身も初の模擬国連です。今回の受賞を期に、日野台高校並びに都立高校生に模擬国連について知って頂きたいと思っています。

準備期間は、国割りが決まってからの 1 ヶ月という非常に短い期間でした。ですので、今回一番大変だったのはこの準備期間でした。調べても本当に欲しい情報が見つからず、ただ時間だけが過ぎていき、焦りを覚えました。さらに、今回私達の担当国であるタイが送出国、受入国の両面を持つ非常に難しい立場にいる事を調べていくうちに知りました。それでも何とか PPP と NP を完成させる事ができ、主張もハッキリしました。

当日、私は主に 2 つの事を新たに知りました。

一つ目は、「本番にならないと分からない」が本当だった事です。立場が合わず、交渉が難しいと思われた国も、別のスポンサー国の交渉により新たにスポンサーになった事がありました。私はただ自分の力の無さを痛感するばかりでした。そんな中、私の相方だった上村さんが足りない部分を補ってくれて、交渉、発言共に積極的にしてくれて、気がつけば中心となって DR を進めることも出来ました。相方の存在は本当に頼もしく、今思えば、私は相方がいなかったら本当に何も出来ませんでした。

本番では想定外の事が多く起こり、柔軟に対応出来ればよかったと思います。

二つ目は「失敗から学ぶ」事です。今まで私は大きな挑戦をした事がなく、大きな成功をしてなければ大きな失敗もしていないような日々を過ごしていました。そんな中、今回の模擬国連で多くの前述のような「失敗」を重ねる事で成長でき、「自分」を知りました。きっと、この大会がなければ知らずに終わっていたと思います。

今回交流した大使の方々は、同じ高校生とは思えないぐらい本当に素晴らしい方ばかりでした。例えば、日本大使の方は様々なスポンサーを集めて下さり、政策の基礎を作って下さりました。日本大使の方がいなければ、DR も提出出来なかったかもしれません。他にも、フランス大使の方は DR 作成を積極的にしてくれて、イギリス、モロッコ、ニュージーランド大使の方々など沢山の大使の方々が問題点を指摘して下さいました。今回大使全員と話せた訳ではなかったのですが、自分からもっと交流しに行けばよかったと思います。

最後に、相方として支えてくれた上村さん、この大会と一緒に出場し、サポートをしてくれた友人、先生、大会を運営して下さいました実行委員の方々に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



E 議場

【講評】議長：浅野高等学校 2 年 成相悠喬

AJEMUN には、第一回、第二回を大使として参加させていただき、今回第三回を実行委員として参加させていただきました。同じ高校生が同じ高校生へ全国規模の模擬国連大会を運営するということはとても考えさせられる経験でした。加えて、私が担当した議場は初心者議場ということもあり、初心に帰らされる思いを感じております。

さて、会議の中身についてでございますが、純粋に凄いなと感嘆している次第でございます。模擬国連がどのようなものであるのかがはっきりとは分からない中、事前の準備、リサーチに真摯に取り組み、自国の現状や理想、そしてそれを実現する政策を考えておりました。会議本番、序盤の方では戸惑いを見せるも、会議の後半には積極的に議論に参加し、自国の意見を表明し、仲間を見つけ、共に頑張っていた様子がとても印象的でした。会議の最後には、大使の方の発言も大幅に増えたのに加え、楽しそうに模擬国連に参加してくれていた姿を見て、感慨深いものがございました。

最後になりますが、至らぬ点多々ありましたが、多くの方の支えがあり、このような形で終えることのできたことに感謝しております。また、今回参加してくださった大使の方々の模擬国連デビューを共にできたことを嬉しく思います。感謝の気持ちと皆様の今後のご活躍を期待して、僭越ながら私からの概評とさせていただきます。

【受賞校一覧】

最優秀賞	Morocco	郁文館グローバル高等学校
優秀賞	UK	郁文館グローバル高等学校
優秀賞	USA	東京女学館高等学校
優秀賞	Angola	立命館高等学校
実行委員特別賞	Sudan	富士見丘高等学校
	Turkey	佼成学園女子高等学校

【最優秀賞】

Morocco 郁文館グローバル高校 3 年 吉田遼

8 月 7-8 日の 2 日間"AJEMUN"に参加しました。

参加しようと思ったきっかけは、実行委員長である友人の安藤君の姿に影響されたのと、学校の友人に勧められたからでした。

最初はリサーチ量がとにかく多すぎて、わからないことだらけで何回も先が見えなくなりました。しかし憧れの安藤君から賞状受け取りたかったという願いと、何よりも憧れた姿に近づきたかったという強い思いから諦めずに努めることが出来ました。

当日はとにかく持ち前の「動く！」精神で走り回りました。各国大使たちとのコミュニケーションを大切にし、丁寧かつ端的に私たちのポリシーを説明することを心がけました。すると、どんどん大

使間での理解が深まり決議に持っていけたことは非常に達成感を感じ、誇りに思います。

また、各国の大使と積極的にコミュニケーションを取ることに専念しました。事前に練っておいた政策を丁寧に説明し、決議にもっていくという最終目標のもと奔走しました。最初の政策では国益に各国間でズレが生じることもあり、その修正作業は特に大変でした。話し合いを通じて政策がブラッシュアップされていく様は大変でしたが非常にやりがいを感じるものでした。

スピーチではやるかどうか迷いましたがウケ狙いの「移民問題をぶっ壊す！」を軸としたスピーチを行いました。緊張張り詰めた空気の中であのスピーチをしたのは正直賭けでしたが功を奏したくさんの大使との距離が縮まり、取材の依頼まで頂きました。やって良かったです笑

最後に…

結果としては、E 議場にて最優秀賞を受賞することが出来ました。全国から 100 校 600 名以上の参加者と出会い熱く討論出来たことは、受験前の私にとって刺激のかつとても価値ある時間でした。これから今回の非常に素敵な機会を得た学びをこれからの活動に還元していきたいです。

運営並びに参加者の皆さんお疲れ様でした。

Morocco 郁文館グローバル高校 1 年 上永野裕真

E 議場で最優秀賞をとらせていただいた、モロッコ大使の郁文館グローバル高校の上永野裕真です。

私は初めての模擬国連の参加ということもあり、担当国が決まってからの 1 ヶ月は相当大変でした。特に英語もろくに読めないのに海外のサイトから担当国の資料を引っ張って作った「事前調べの PPP 作成」。本番まで、他国の政策がわからないため、他国のリサーチをして協力できそうな国を探したり。初めてだったこともあり、作業は相当難航しました。

それに加え、自分は元々人と話すことが得意ではなかったため、不安は相当なものでした。

1 日目。討議が始まると自分はただただ呆然と立ち尽くすだけ。当たり前のように、そんな中やった 1 日目は酷いものでした。マインドセットが整っておらず、不安が行動、態度に出てしまっていました。そんな中、自分の隣には全てを完璧にこなすバディーの先輩がいました。1 日中、仕事を任せっきりだったため、帰ってからの罪悪感は大きかったことを今でも覚えています。しかし、自分も頑張りたいという気持ちが徐々に込みあがっていったことも覚えています。

2 日目の自分は少し前日とは違っていました。自分からスポンサーとなってくれる国に声をかけたり、政策の説明をしたり。

「自分から動こう」これは前日の夜、先輩と約束したことでした。そのおかげで、以前とは違う積極性のある自分になることができました。なんといっても一番嬉しかったのは、討議が終わってから先輩に褒められたことです。

最後になりますが、このようにダメ人間でも 1 日で変わるのが、模擬国連です。刺激の受け方は人それぞれで違います。自分は今回は「先輩から」でしたが、様々な学校からくる同級生、先輩。緊迫した空気感。とてもいい環境のもと、色々なものから学びを得て、刺激され、自分をさらにいいものに変えていけるのが模擬国連だと私は思います。

この度、企画、運営、開催をしてくださった方々、たくさんの大使のみなさま、誠にありがとうございました。

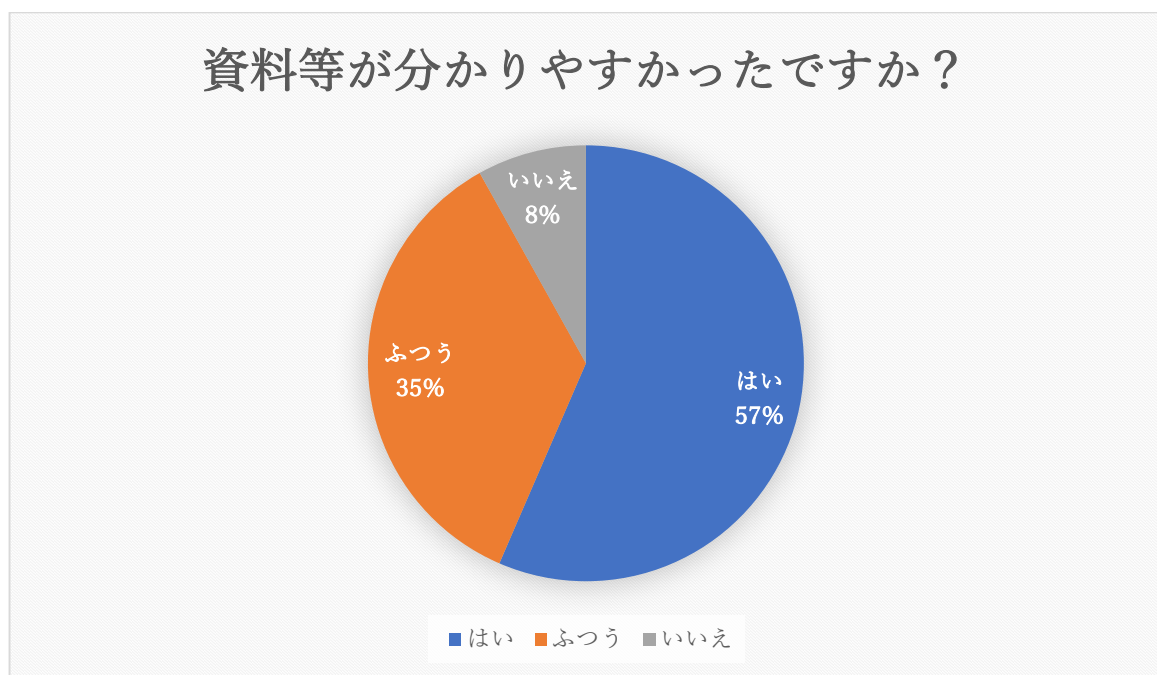


参加者アンケート

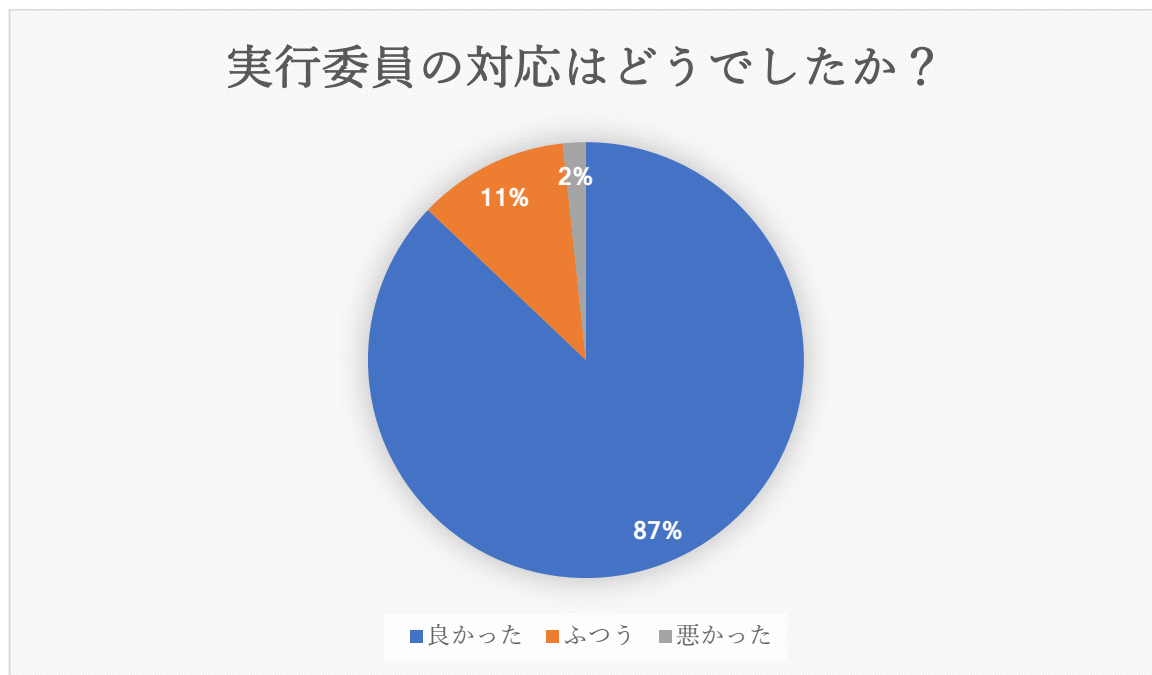
1. AJEMUN に参加してよかったですか？



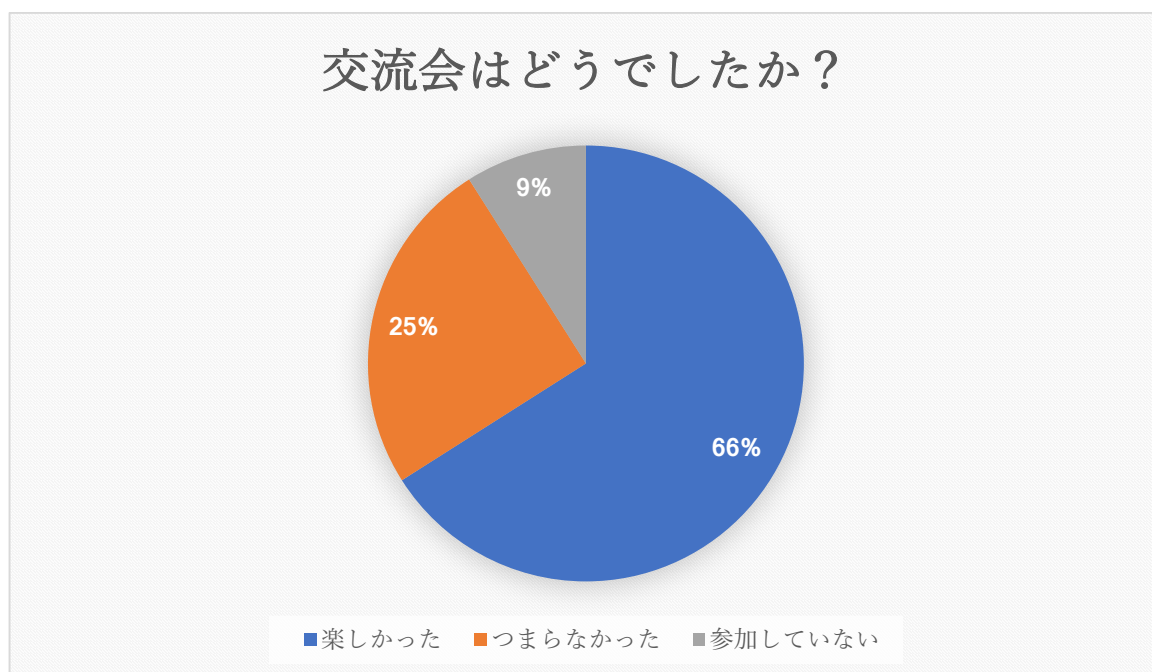
2. 各資料（会議細則や BG、初心者用資料、HP など）は分かりやすかったですか？



3. この大会は高校生が実行委員となって運営していますが、実行委員の対応はどうでしたか？（各議場のフロントの議事進行も含む）



4. 交流会はどうでしたか？



5. AJEMUN に参加してみて（会議に申し込んだ後から）思ったこと、感じたこと、ここをこうしてほしいなどの改善点などがあれば、教えてください。（どんな意見でも提案でも構いません。自由に書いてください。書かなくても結構です。）

- ・今までで最も意義のある会議となりました。ありがとうございました。
- ・フロントの方が、高校生と思えないくらいしっかりされていて、憧れとなりました。
- ・前回出場した時は何も出来なかったけど、今回は満足はしていないが他国をまとめることも出来て成長出来ました。
- ・運営側もやってみたいです！
- ・いろんな県の人たちと意見を交換して、最終的には賞も受賞できたので良かったと思います。
- ・自分の意見を話すことは難しかったけれど、一度話してみるとその後はどんどん話しかけることができてとても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・会議監督の提言が的確で素晴らしいものだった。
- ・同年代とは思えないほどの交渉力をもつ人たちに会えて、とても刺激を受けました。ありがとうございました。
- ・思っていたより難しくて大変だったけど、同じ高校生でもリーダーシップを取って活躍している人、各国の意見を聞いてまとめられている人もいて、来年もぜひ参加してそのようになりたいと思いました。
- ・アドミニとして参加しましたが、来年からは大使として参加したいと思った。ありがとうございました。
- ・フロントの運営がとても分かりやすく、会議が速やかに進んでいったのが良かったと思いました。ありがとうございました。
- ・新たな資料などが HP に上がったとき、各校の顧問の先生にでも良いのでメールなど送ってお知らせしていただければ良かったです。
- ・AJEMUN は他の会議と違って、全て日本語で行うため、英語だと話し合いの時参加できずに引いてしまっていたが、今回は初めて議論に参加することができた。
- ・会議の様子や進め方が動画として挙がっていましたが、初心者には少しわかりにくかった様に感じました。その為、本番が分からなすぎて不安でした。もう少し初心者向けの解説が欲しかったです。
- ・今まで参加した大会の中で一番わかりやすく良いと思いました。来年の AJEUMUN の時はもっと活躍したいです。
- ・入場時、肖像権の承諾書を渡す時、非常に混雑していたので、学校の引率者、又は代表者 1 人がまとめて肖像権の承諾書を渡しに行けばスムーズになると思います。
- ・ホームページに、PPP や WP の見本を載せて欲しいです。
- ・とにかく、数多くの高校生が意見をぶつけ合い、思惑をからめあい、国際問題に向き合うこの会議は熱い熱い会議でした。

後援・助成・協賛・協力（※順不同）

本大会の実施にあたり、多くの方々から温かいご支援を賜りました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます。

【後援】（順不同）

外務省

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会

国連広報センター

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

日本私立中学高等学校連合会

東京都教育委員会

全国都道府県教育委員会連合会

公益財団法人 日本国際連合協会

【助成】

公益財団法人 公文国際奨学財団

【協賛】（順不同）

啓林館

東京書籍株式会社

株式会社 第一学習社

株式会社公文教育研究会グローバル・コミュニケーション&テストイング

河合塾 みらいふ

株式会社 帝国書院

学校法人河合塾（海外大進学プログラム AGOS×K）

株式会社 JTB 教育第一事業部

株式会社 山川出版社

実教出版株式会社

株式会社近畿日本ツーリスト首都圏 首都圏国際交流センター

株式会社 JTB 横浜支店

【協力】

理想科学工業株式会社

グローバル・クラスルーム日本委員会

御礼

大会を開催するにあたり、昨年に引き続き、理想科学工業株式会社様より4台の印刷機をお借りすることができました。600名を超える高校生たちに、一度に Working Paper や Draft Resolution を配布するには、印刷のスピードと正確性が重要となってまいります。模擬国連大会を推進するのに最適な印刷機をお持ちの理想科学工業株式会社様にご依頼させていただき、快くお引き受け頂きましたこと、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。



デジタル印刷機 リソグラフ



高速プリンター オルフィス



大会事務局長より

大会事務局長

公文国際学園中高等部 米山 宏

御礼

400名、500名、650名…もうお分かりでしょうが、この大会の参加者数の推移です。しかも参加校はついに今年100校になりました。年を追う毎に模擬国連が広がっている実感を得ることができる数字です。多くの日本全国の高校生がこの大会に参加することの意義を感じてくれていると解釈できるでしょう。まずはこのように多くの高校生の皆さんに集っていただいた事と各校で普段より模擬国連を指導されている先生方のご理解に感謝いたします。そして何より実行委員長の安藤君はじめ実行委員の皆さんにも改めて御礼を述べたいと思います。この大会は「高校生の高校生による高校生のための」ものです。ですからその主役は高校生の大使と実行委員生徒です。大使と実行委員、そのどちらが欠けても大会は成り立ちません。第3回を数えるとはいえ、まだまだ運営面で不手際はあったと思われます。特に閉会式で正式な賞状を渡すことができなかった事は忸怩たる思いです。受賞された大使の皆さん、本当に申し訳ありませんでした。ただ、あの場で私が会場に向かってお許しを請うたときに、全体から躊躇なく温かい拍手をいただきました。あの拍手はお許しの拍手であったのと同時に実行委員へのねぎらいのそれであったと思われてなりません。おそらく、参加大使の皆さんも2日間の実行委員の動きを見て、大変さを実感していたからでしょう。高校生が同じ高校生に対して思いやりを示した一場面だったのではないのでしょうか。そしてまさしくその出来事こそが実行委員と同じ高校生同士の一体感を醸成し「高校生のための」大会になった瞬間であると、私は深く感銘を受けました。もちろんそのような大使の皆さんの温かい気持ちに胡座をかくつもりは毛頭ありません。改善すべきは改善し、円滑な運営を目指すのは当然ですが、そのように理解と共感を示してくれた今年の大使の皆さんに改めて御礼を述べたいと思います。

さて、今年の会議はいかがだったでしょうか？今年は参加者数の増加に合わせて昨年より1議場多い5つの議場を設定しました。それぞれ活発な議論が繰り広げられたと思いますが、今年は全体を通してパスしたレゾが少なかったように感じます。よく陥りがちなことに、レゾの些末的なことにこだわりすぎて賛成ができなくなるということがあります。国益を目指すのはもちろんですが、模擬国連では国際益も目指すということを忘れてはいけません。何のための話し合いか、何が世界全体にとってのベターなのかを常に考えて行動しましょう。高いレベルでの妥協点を創造することこそが模擬国連の醍醐味です。今後もこれを心掛けながら模擬国連のエンディングの理想形であるコンセンサスをぜひ目指して欲しいと思います。

最後にこの場をお借りして、大会にご協力いただいたすべての皆さま、ご協賛いただいた企業・団体の皆様方、そして何よりも今年新しく共催団体となっていたコトバンク株式会社の小泉氏に厚く御礼を申し上げます。大会を運営していると、想定外の出来事が多々起こっています。そのような意味でもまだまだ「大会の成功」を語るのは憚られます。来年以降もこの大会を持続的で恒久的なものにするために多くの皆様のご協力をいただければ幸いです。いつの日か「大会の成功」を宣言できる日が来ることを夢みて、今年の私の大会事務局長としての挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

役員一覧

【大会事務局長】

米山 宏（公文国際学園中等部・高等部）

【総務広報セクション】

宮坂 武志（浅野中学・高等学校）

後藤 芳文（玉川学園中等部・高等部）

池田 亜佑美（金光大阪高等学校）

【運営受付セクション】

関 孝平（大妻中学・高等学校）

柿岡 俊一（埼玉県立浦和西高等学校）

三浦 佳奈（富士見中学・高等学校）

【フロントセクション】

飯島 裕希（頌栄女子学院中学校・高等学校）

齊藤 智晃（渋谷教育学園幕張中学・高等学校）

室崎 摂（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校）

竹林 和彦（早稲田実業学校）

【大会顧問】

星野 俊也（国連日本政府代表部大使次席常駐代表）



第4回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)開催のご案内

次年度は下記の日時・場所にて表記大会を開催する予定にしております。全国からのご参加お待ちしております。

- ・開催日時 2020年8月6日(木)・7日(金)
- ・開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター



